

## 第2章 流域及び河川の自然環境

### 2-1 自然環境

#### (1) 自然環境の概要

雲出川流域は、上流域の山地、中流域の丘陵地、下流域の平野部に大きく分けられ、植生や気候、土地利用などもこれらの区分によってそれぞれ異なる特徴を示す。

このようなことから雲出川の流域を以下の3つに区分することとした。

#### ① 上流域（源流部～八手俣川合流点付近）

標高 300m以上の山地で、平地は谷底平野としてわずかに見られるのみである。平均年間降水量は 2,000mm を超え、源流部では 2,200mm を超える多雨地帯となっている。花崗岩類からなる地質が主体となっている。

植生は、スギ・ヒノキ等の人工林が大半を占めているが、ブナの自然林も点在している。

#### ② 中流域（八手俣川合流点～高野頭首工）

標高 100～300mの丘陵地が広がり、平均年降水量は 1,800～2,000mm 程度である。地質は、一志層群の砂岩や礫岩類が広がっている。発達したアカマツ林や、スギ、ヒノキ等の人工林、コナラ、クヌギ等の落葉広葉樹やシナ、カシの萌芽林が見られる。

#### ③ 下流域（高野頭首工～河口）

標高 100m以下で、伊勢平野の田園地帯が広がる。平均年降水量は 1,600～1,800mm 程度である。地質は沖積層が広がっており、農地や市街地としての利用が見られる。

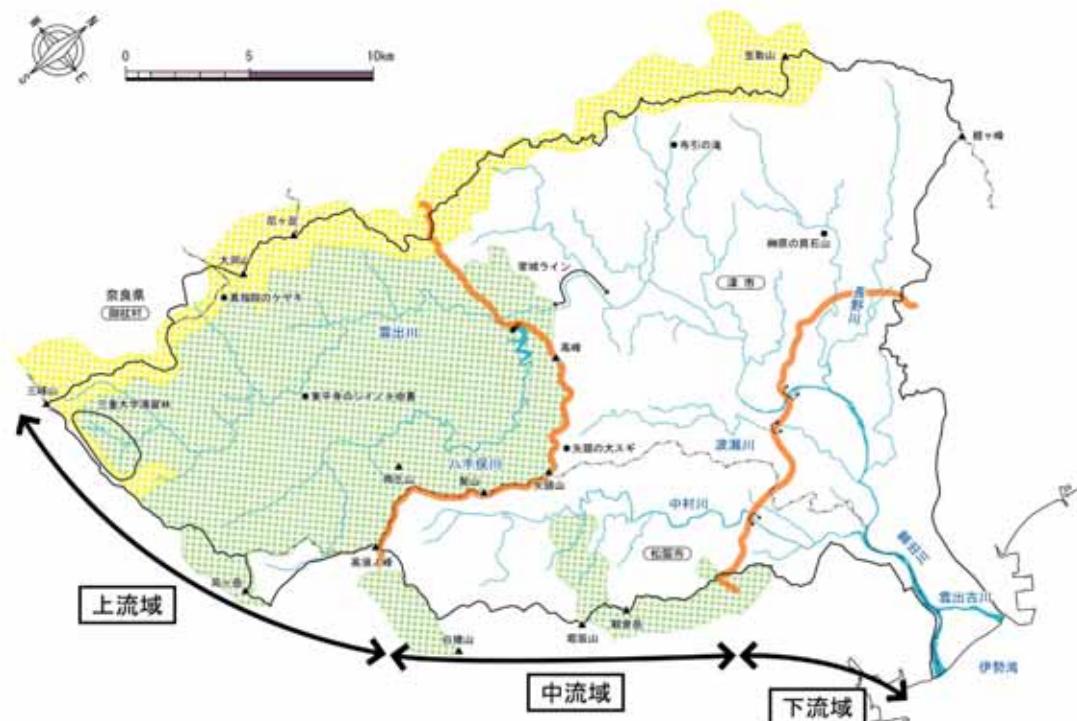


図 2-1 流域区分図

## (2) 流域の自然環境

### ① 上流域

雲出川上流域は、布引山脈から高見山地にかけての一帯が室生赤目青山国定公園に、津市美杉町のほぼ全域と松阪市の一部が赤目一志峡県立自然公園に指定されている。中でも、赤目一志峡県立自然公園は雲出川上流域の大半を占め、<sup>おくいちし</sup>奥一志峡をはじめとした渓谷・景勝地が見られる。赤目一志峡県立自然公園内に位置する津市美杉町は、オオムラサキ、ギフチョウ、ゲンジボタル、ムカシトンボ等の貴重な昆虫の宝庫となっている。植生帶は、暖帶林（ヤブツバキクラス域）から温帶林（ブナミズナクラス域）に属し、最上流部の高見山地は、ブナクラスの自然林のほか、スギ、ヒノキ、アカマツなどの人工林が多く、大半を山林地が占める緑被度の高い流域を形成している。<sup>とうへいじ</sup>東平寺のシイノキ樹叢、<sup>しんぶくいん</sup>真福院のケヤキが県の天然記念物に指定されている。



東平寺のシイノキ樹叢（津市美杉町）  
この地方の原植生を知る手がかりを与えるものとして保護されている。倒伏すると寺の本堂を壊す恐れがあるとして、一本伐られたが、直径 2 m に達する切株の幹円板が本堂に保存されている。昭和 53 年に県の天然記念物に指定された。



真福院のケヤキ（津市美杉町）  
真福院は、平安時代に大洞山の南麓に開かれた真言宗の古刹で、伊勢国司を務めた北畠氏一族の祈願所でもあったといわれている。境内のケヤキの巨木は、昭和 15 年に県の天然記念物に指定された。また、真福院参道の桜並木も国指定の名勝となっている。

### ② 中流域

中流域は、丘陵地帯から平野部となっており、発達したアカマツ林やスギ、ヒノキの植林地が多く見られ、コナラ、クヌギ等の落葉広葉樹やススキ草原等の代償植生、シイ、カシの萌芽林なども見られる。矢頭の大スギ、<sup>や ず</sup>榎原の貝石山が県の天然記念物に指定されている。



矢頭の大スギ（津市一志町）

波氏神社奥社の境内、矢頭の中宮にある樹齢1000年の大杉。昭和28年に県の天然記念物に指定され、ご神木として大切に祀られている。

所在地：矢頭山中腹（波瀬）

周囲：約20m 高さ：約40m



榎原の貝石山（津市榎原町）

榎原の貝石山の新世代の地層から、アカガイやカキといった貝類やサンゴ、サメの歯などの化石が多く出土しており、1500万年前にはこの辺りが海であったことを物語っている。昭和12年(1937)に県の天然記念物に指定されている。

### ③ 下流域

下流域は、沖積平野と沿岸部の干拓地形となり、水田、畑、果樹園として利用されている。

河口部の砂浜海岸は、ハマヒルガオ・ハマニガナ等海浜植物群落やクロマツ防風林がみられるほか、シギ、チドリ、カモ等の水鳥の県下有数の渡来地として有名である。津市と津市香良洲町の臨海部の砂浜海岸は、伊勢の海県立自然公園に指定されている。



田園風景（津市久居地区）

【出典：ひさい入門 久居市市勢要覧 H8】

下流の平野部には一志米の産地となる田園風景が広がっており、下流域の風景を特徴づけている。

### (3) 河川の自然環境

#### ① 上流部の自然環境

雲出川の源流にあたる平倉川上流部付近は三重大学演習林となっており、総面積460haのうち天然生林がほぼ60%を占め、モミ、ツガ等の針葉樹、ブナ、カエデ類、ケヤキ等の落葉広葉樹、シキミ、サカキ等の常緑広葉樹からなっている。このような環境に依存し、クマタカ等の鳥類やアマゴ、カジカ、アユ等の魚類が生息している。また、オオムラサキ、ギフチョウ、ゲンジボタル、ムカシトンボ等の貴重な昆虫の宝庫となっている。

雲出川の上・中流域の津市美杉町を中心に松阪市中部と伊賀盆地にまたがる区域は、

赤目一志岐県立自然公園に指定されており、雲出川の浸食でできた渓谷美が景勝地となっており、キャンプやハイキングの場として利用されている。また、八手俣川の君ヶ野湖周辺にはソメイヨシノが植えられており、春には見事な眺めとなるほか、新緑、紅葉のシーズンなど四季を通じて楽しむことができる。



平倉の三重大学演習林  
(津市美杉町)

平倉川に位置する三重大学の演習林は、江戸時代から藩有林として保護され、総面積 460ha のうち天然生林がほぼ 60% を占め、クマタカやオオダイガハラサンショウウオなどが生息する動植物の宝庫となっている。



伊勢奥津 (津市美杉町)

松阪と名張を結ぶ予定であった名松線は、松阪駅から終着駅伊勢奥津まで雲出川沿いを走る。比津から伊勢奥津まで、3 回雲出川を渡り、左右の車窓から、雲出川の流れを望むことができる。

## ② 中流部の自然環境

中流部は、瀬と淵などの変化に富んだ流れがアユ等の水生生物の良好な生息環境となっており、清流を感じさせる。谷底平野には水田が広がり、河川沿いに畠や桑畠が点在する。スナヤツメやアカザなどの魚類が確認されている他、国の天然記念物に指定されているネコギギやオオサンショウウオの生息が報告されている。

青山高原の中腹には布引の滝があり、周辺は新緑、紅葉と四季の彩りが鮮やかでハイキングコースとなっている。

代表的な景勝地である家城ラインには、岩や石が突き出た趣のある景観が見られ、春には花見、夏には水遊びを楽しむ多くの人々で賑わう。



布引の滝 (津市白山町)

【出典：白山町パンフレット】  
60m の「段瀑」で、上から、霧生滝、飛竜滝、大日滝となっている。山間を縫う一筋の流れと、新緑、紅葉、四季の彩りが鮮やかな周囲は、ハイキングコースとなっている。



家城ライン (津市白山町)

一志郡津市白山町真見の滝から同町瀬戸ヶ淵に至る約 3km の雲出川の奇勝。荒々しく削られた岩肌、雲出川の清流、深緑の淵など美しい風景が広がる。

### ③ 下流部の自然環境

下流部では、広い水面、河畔林、緩やかな流れ、変化に富んだ流れなど、広い川幅をゆったりと流れる景観を呈している。また高水敷では畑作やナシ等の果樹園として利用されている。

高水敷は、オギ群落、セイタカアワダチソウ群落等の高茎草本群落が主で、ムクノキ・エノキ群落等の樹林も点在して見られ、エナガ、コゲラ、ヒヨドリ等の鳥類が見られる。

また、雲出古川分派点の左岸付近はサギ類の集団繁殖地となっているほか、波瀬川合流点から小野江頭首工付近までは、アユの産卵場となっている。

### ④ 河口部の自然環境

伊勢湾に流入する河口部には大きな干潟が形成されており、アイアシやハマボウ、シオクグ、ハママツナ等の塩沼植物が生息している。回遊魚、汽水・海水魚では、チチブ、マハゼ等が生息しており、冬季にはカモ類の集団越冬地、春季・秋季には旅鳥のシギ・チドリ類が多く渡来する。このため、環境省により「日本の重要湿地 500」に選定されている。



アユの産卵場（津市一志町）



サギのコロニー（津市）

波瀬川合流点から小野江頭首工までは、産卵場としての条件を備えた絶好の場所である。  
6月～7月頃になると、アユ漁、投網、張切漁が解禁となる。

雲出川と雲出古川の分派点付近左岸の河畔林は、人が寄りつけないことからサギ類の集団営巣地（コロニー）となっており、4～8月にかけての子育ての時期は大変賑やかになる。



アイアシ群落（松阪市）

多年草、塩沼植物群落。  
草丈が高く密生するため、ヨシ群落同様、鳥類の隠れ場などに利用される。  
雲出川及び雲出古川の河口部で群落を形成して生育している。



雲出川に群れる鵜と鷺  
(津市香良洲町)

【出典：香良洲町町勢要覧 H11】

河口部は、さまざまな鳥類の宝庫となっている。オオヨシキリやカルガモ、カイツブリといった水鳥は、河口部で子育ても行う。



干潟の風景（津市香良洲町）

雲出川河口部には、規模が大きな干潟があり、全国的に干潟が減少している中にあって貴重である。春と秋にはシギ・チドリ類、冬はカモ類が姿を見せ、四季を通じて渡り鳥の休息・採餌の場を提供している。

## ⑤ 中村川の自然環境

流れが全体的に穏やかで、河岸に洲や草地主体の植生が広がる中村川では、カワセミやチュウサギが確認されている。また、<sup>てんげいじ</sup>天花寺橋下流の高水敷を流れる水路の水辺でミゾコウジュが確認されている。

## ⑥ 波瀬川の自然環境

<sup>や</sup><sup>さ</sup>天頭山を源流とする波瀬川の直轄管理区間 4.7km までは、ツルヨシ群落の面積比が高く、特に 1~2km 付近は両岸ともにまとまって自生している。また、河川水辺の国勢調査では、本川よりも多くの植物種が確認されており、植物相の広さが伺える。

また、流れの緩やかな場を生息地にする、タナゴ類やドジョウ等の魚類が確認されている。

## (4) 動植物の生息状況

### ① 雲出川流域にすむ生物

雲出川の大臣管理区間上流部は一部が山付き区間であり、森林性の植物種が多く、中・下流部ではワンド状の止水的環境や湿地、砂州、塩沼地や、耕作地など、様々な環境が見られ、多様な生物が生息している。

雲出川の主要な植物群落の出現状況は、河口部の塩沼地や水際にアイアシ群落・ヨシ群落が分布しているのをはじめ、香良洲頭首工～<sup>ながの</sup>長野川合流点付近 (4～13km) まではオギ群落の優勢な分布域となっており、広く分布している。中村川合流点より上流 (8～16km) では、ツルヨシ群落が水辺に広く分布している。

中村川合流点～小野江  
頭首工付近 (8～11km) の  
右岸高水敷には、耕作地  
が広く分布している。ま  
た、須賀瀬橋～雲出井頭  
首工付近 (9～12km) の区  
間では、採草地としての



ハママツナ

一年草。塩生植物。  
三重県レッドリスト 2005 及びレッ  
ドデータブック近畿の記載種。潮が  
満ちて波がくると浸かる塩性湿地  
に生育する。本川河口部、雲出古川  
で確認されている。



ハマボウ

落葉低木。塩生植物。  
神奈川県を分布の東限とする暖地性の  
植物で、三重県では熊野灘沿岸地方に  
分布し、伊勢湾岸沿岸地域では稀な植  
物群落となっている。三重県レッドリ  
スト 2005 記載種。

利用も見られ、一年生草本植物のヒメシバ群落などで構成される人工草地が広がっている。香良洲頭首工～雲出井頭首工付近 (4～12km) の高水敷には、多年生草本植物のセイタカアワダチソウ群落が分布している。

河口付近から上流域までメダケ群落が断続的に見られ、水際に帶状に分布し、雲出川の主要な景観を構成している。

また、河口の塩沼地や海浜環境では、その立地特有のアイアシやハマボウ、シオクグ、ハママツナ等の塩沼植物が確認されている。

雲出川流域にすむ魚類は、河口部および雲出古川ではビリンゴ、チヂブ、マハゼなどの回遊魚、汽水・海水魚が中心となっている。

下流部ではオイカワ、アユ、中・下流部および支川の中村川ではオイカワ、タモロコ、カワヨシノボリ等が多く確認されているほか、スナヤツメ、ズナガニゴイ、アブラボテも確認されている。また、津市美杉町竹原付近では国の天然記念物であるネコギギの生息が報告されている。

回遊魚ではウキゴリ、スミウキゴリが河口より其倉橋（14.8km）付近まで、シマヨシノボリが河口より八手俣川合流点（34.2km）付近まで遡上しているのが確認されている。アユは放流されていることもあるほぼ全川で確認されており、波瀬川合流点から小野江頭首工までは産卵場となっている。



ネコギギ

【提供：清水義孝氏】

淡水魚。

伊勢湾と三河湾に流入する河川のみ生息する日本固有種。きれいな流水を好むことに加え、岸辺の入り組んだ場所に生息する。

生物学的にも大変貴重な種である。



アブラボテ

【提供：清水義孝氏】

淡水魚。

比較的水のきれいな小川や用水路の水草の茂ったところを好む。雲出川下流部で確認されている。三重県レッドリスト2005の記載種。



キイロヤマトンボ

環境省レッドリスト及び三重県レッドリスト2005の記載種で、JR紀勢本線雲出川鉄橋付近などで確認されている。



モノアラガイ

環境省レッドデータブック及び三重県レッドリスト2005の記載種。

中川原橋付近、てんぱいじ天花寺橋付近、JR紀勢本線雲出川鉄橋付近などで確認されている。

雲出川流域にすむ底生動物は、河口部では感潮区間が河口から約3kmあり、比較的長く発達した干潟がみられることから、マキガイ綱やニマイガイ綱、ゴカイ綱、甲殻綱が確認されている。

香良洲頭首工より上流の区間では頭首工が多く存在し、湛

水区間が連続していることから、流れが緩やかで底質が細砂～細礫の区間が多く、石礫底の早瀬が形成されている区間はごく限られている。このような環境を反映して、流速の比較的緩い環境に生息する種(カゲロウ目のコカゲロウ科やマダラカゲロウ科、トンボ目、カメムシ目、コウチュウ目)等が多く確されており、キイロヤマトンボ、モノアラガイ等が確認されている。

雲出川流域にすむ鳥類は、香良洲頭首工付近より下流部および雲出古川で、チュウサギ、コサギ・アオサギ等のサギ類やカワウが多く見られ、秋季から冬季にはヒドリガモ・コガモ・ホシハジロ等のカモ類が多く見られる。

香良洲頭首工付近より上流部では、サギ類やカワウの他、砂礫州のある所でセグロセキレイ・イカルチドリが確認されており、高水敷に樹林がある所では、キジバト、コグラ、ヒヨドリ、エナガ、シジュウカラ等の林地性の種も確認されている。雲出大橋付近の左岸はサギ類の集団繁殖地となっている。また、中村川合流点付近と雲出川河口部は、冬季にカモ類の集団越冬地となっているほか、春季・秋季には旅鳥のシギ・チドリ類が多く確認されている。



チュウサギ

環境省レッドデータブック及び三重県レッドリスト2005の記載種。マツやコナラの木の枝や竹藪に枯れ枝でコサギ・ゴイサギ等に混じって集団営巣をする。

雲出川流域にすむ昆虫類は、ヨシ、クズ、セイタカアワダチソウ、ヤナギ、メダケ等の河川区域内の植生条件を反映し、全川的にササキリ類、コオロギ類、ショウリョウバッタ等のバッタ目、ハマベアワフキ等のカメムシ目、ベニシジミ、マメコガネ、ナナホシテントウ、クロトゲハムシ等の草地を主たる生息域とする昆虫類が多く確認されている。また、河川敷に樹林地には、クワガタムシ類、カナブン、オオスズメバチなど樹林地性の種類も確認されている。また、ワンドや湿地が見られる所もあり、そのような環境では、ハグロトンボ、アオサナエ、コシアキトンボ等のトンボ目、アメンボ類、ゲンゴロウ類など水域を主たる生息域とする昆虫類が確認され、トンボ類が豊富に確認されている。海岸付近の砂浜に生息するハマヒヨウタンゴミムシや、川原の砂地に生息し、近年全国的に減少傾向にあるカワラゴミムシなどが確認されている。

雲出川流域にすむ両生類ではトノサマガエル、ヌマガエルやウシガエル、爬虫類ではカナヘビ、哺乳類ではコウベモグラ、タヌキ、イタチ属などが確認されている。中流部の支川では国の天然記念物であるオオサンショウウオの生息も報告されている。

生息環境との関連でみると、下流部の高茎草本地ではカヤネズミの巣が確認されているほか、点在する池やワンドの岸辺、水たまりなどではアマガエルやトノサマガエルなどが繁殖場として利用している。河川敷の平地にはカナヘビなどが確認されている。

特定種は、4.5km付近右岸側にみられる池でスッポンが確認されている。

## ② 雲出川における貴重な種

雲出川における貴重な種は、河川水辺の国勢調査等における現地調査確認種をもとに以下の基準で選定した。

### 【「重要種」の選定に用いた文献】

- ・「文化財保護法」「文化財保護条例」における国、都道府県、市町村指定天然記念物
- ・「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物種および緊急指定種
- ・環境省（庁）編「日本の絶滅のおそれのある野生生物－レッドデータブック」掲載種  
(2000：植物I(維管束植物)、爬虫類・両生類、2002：鳥類、哺乳類、  
2003：汽水・淡水魚類、2005陸・淡水産貝類、2006：クモ形類・甲殻類等)
- ・環境省（庁）編「レッドリスト」掲載種（2000：昆虫類）
- ・地方版レッドデータブック  
三重県レッドリスト2005（2005：三重県環境森林部自然環境室）  
改訂・近畿地方の保護上重要な植物  
—レッドデータブック近畿2001—（2001：レッドデータブック近畿研究会）  
近畿地区鳥類レッドデータブック（2002：近畿鳥類レッドデータブック研究会）

既往の河川水辺の国勢調査により確認された種のうち、植物20種、陸上昆虫類25種、底生動物11種、魚類13種、爬虫類1種、鳥類59種が特定種として確認された。

■雲出川で確認された植物の特定種一覧表

種名	指定区分	確認場所
キヌヤナギ	三重レ(VU)	雲出川下流部
ハママツナ	三重レ(NT)、近畿レ	雲出川河口部、雲出古川
ベンケイソウ	近畿レ	雲出川下流部
タコノアシ	環(VU)、三重レ(VU)、近畿レ	雲出川下流部、中村川
ハマボウ	三重レ(VU)、近畿レ	雲出川河口部
ゴキヅル	三重レ(EN)	雲出川河口部～下流部
ヒメミゾハギ	三重レ(NT)、近畿レ	雲出川下流部
ハマサジ	環(VU)、三重レ(NT)、近畿レ	雲出古川
ミヅコウジュ	環(NT)、三重レ(VU)、近畿レ	雲出川河口部～下流部、中村川、波瀬川
シソクサ	近畿レ	雲出川下流部
カワヂシャ	環(NT)、三重レ(DD)、近畿レ	雲出川下流部
フクド	三重レ(VU)、近畿レ	雲出古川
オナモミ	三重レ(EX)、近畿レ	雲出川河口部～下流部、雲出古川
ニラ	近畿レ	雲出古川
ノカンゾウ	三重レ(NT)	雲出川河口部～下流部、中村川
アイアシ	三重レ(VU)、近畿レ	雲出川河口部、雲出古川
ナガミノオニシバ	三重レ(NT)、近畿レ	雲出川河口部、雲出古川
コガマ	近畿レ(NT)、近畿レ	雲出川下流部
シオクグ	近畿レ	雲出川河口部、雲出古川
マツカサススキ	三重レ(VU)、近畿レ	雲出川下流部

国指……国、県、市町村指定天然記念物

保存……「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」における国内希少野生動植物種

および緊急指定種

環……環境省「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブック」記載種

CR…絶滅危惧IA類 EN…絶滅危惧IB類 CR+EN…絶滅危惧I類 VU…絶滅危惧種II類  
NT…準絶滅危惧種 DD…情報不足 LP…絶滅のおそれのある地域個体群

三重レ…「三重県レッドリスト2005」記載種

CR…絶滅危惧IA類 EN…絶滅危惧IB類 CR+EN…絶滅危惧I類 VU…絶滅危惧種II類  
NT…準絶滅危惧種 DD…情報不足

近畿レ…「改訂・近畿地方の保護上重要な植物—レッドデータブック近畿2001」記載種

出典：平成 7年度 河川水辺の国勢調査 雲出川水系植物調査報告書

平成 10年度 河川水辺の国勢調査 雲出川水系植物調査報告書

平成 13・14年度 河川水辺の国勢調査 雲出川水系植物調査報告書

■雲出川で確認された陸上昆虫類等の特定種一覧表

種名	指定区分	確認場所
ワスレナグモ	環(NT)、三重レ(VU)	雲出川下流部、中村川
オニグモ	三重レ(NT)	雲出川河口部～下流部、雲出古川、中村川
コガネグモ	三重レ(NT)	雲出川河口部～下流部、中村川
ドヨウオニグモ	三重レ(NT)	雲出川河口部～下流部、中村川
イサゴコモリグモ	三重レ(VU)	雲出川下流部
コサナエ	三重レ(EN)	中村川
キイロヤマトンボ	環(VU)、三重レ(EN)	雲出川下流部
ヒサゴクサキリ	三重レ(DD)	中村川
エサキアメンボ	環(NT)、三重レ(NT)	雲出川下流部
ナガミズムシ	環(NT)、三重レ(DD)	雲出川下流部
ミヤケミズムシ	三重レ(DD)	雲出川下流部
ヒメミズカマキリ	三重レ(NT)	雲出川下流部
ギンイチモンジセセリ	環(NT)、三重レ(VU)	雲出川下流部、中村川
アオメアブ	三重レ(DD)	雲出川河口部～下流部、雲出古川、中村川
クロバネツリアイブ	三重レ(DD)	雲出川河口部～下流部
オオハチモドキバエ	三重レ(DD)	中村川
アオヘリアオゴミムシ	三重レ(EN)	雲出川下流部、雲出古川
コガタノゲンゴロウ	環(CR+EN)、三重レ(EX)	雲出川下流部、雲出古川
カワラゴミムシ	三重レ(EN)	雲出川河口部～下流部
アラメエンマムシ	三重レ(DD)	雲出川下流部
ヤマトモンシデムシ	三重レ(VU)	雲出川下流部
ジュウクホシテントウ	三重レ(NT)	雲出川下流部
クロスジイッカク	三重レ(NT)	雲出川河口部～下流部
モンスズメバチ	三重レ(VU)	雲出川下流部、中村川
マイマイツツハナバチ	三重レ(EN)	雲出川下流部

国指……国、県、市町村指定天然記念物

保存……「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」における国内希少野生動植物種  
および緊急指定種

環……環境省「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブック」及び「レッドリスト」  
記載種

CR…絶滅危惧IA類 EN…絶滅危惧IB類 CR+EN…絶滅危惧I類 VU…絶滅危惧種II類  
NT…準絶滅危惧種 DD…情報不足 LP…絶滅のおそれのある地域個体群

三重レ…「三重県レッドリスト2005」記載種

CR…絶滅危惧IA類 EN…絶滅危惧IB類 CR+EN…絶滅危惧I類 VU…絶滅危惧種II類  
NT…準絶滅危惧種 DD…情報不足

出典：平成 6・7年度 河川水辺の国勢調査 雲出川水系陸上昆虫類調査報告書

平成 11年度 河川水辺の国勢調査 雲出川水系陸上昆虫類調査報告書

平成 16年度 河川水辺の国勢調査 雲出川水系陸上昆虫類調査報告書

■雲出川で確認された底生動物の特定種一覧表

種名	指定区分	確認場所
マルタニシ	環(NT)、三重レ(NT)	雲出川下流部、雲出古川、中村川
イボウミニナ	三重レ(VU)	雲出川河口部、雲出古川
ミズゴマツボ	三重レ(DD)	雲出川河口部、雲出古川
モノアラガイ	環(NT)、三重レ(NT)	雲出川下流部、中村川
イシガイ	三重レ(NT)	中村川
ハマグリ	三重レ(VU)	雲出川河口部、雲出古川
アリアケモドキ	三重レ(VU)	雲出川河口部、雲出古川
キイロヤマトンボ	環(VU)、三重レ(EN)	雲出川下流部
コオイムシ	環(NT)	雲出川下流部
ヒメミズカマキリ	三重レ(NT)	中村川
セスジガムシ	環(NT)	雲出川下流部

国指……国、県、市町村指定天然記念物

保存……「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」における国内希少野生動植物種  
および緊急指定種

環……環境省「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブック」及び「レッドリスト」  
記載種

CR…絶滅危惧IA類 EN…絶滅危惧IB類 CR+EN…絶滅危惧I類 VU…絶滅危惧種II類  
NT…準絶滅危惧種 DD…情報不足 LP…絶滅のおそれのある地域個体群

三重レ…「三重県レッドリスト2005」記載種

CR…絶滅危惧IA類 EN…絶滅危惧IB類 CR+EN…絶滅危惧I類 VU…絶滅危惧種II類  
NT…準絶滅危惧種 DD…情報不足

出典：平成 6・7年度 河川水辺の国勢調査 雲出川水系底生動物調査報告書

平成 12年度 河川水辺の国勢調査 雲出川水系底生動物調査報告書

### ■雲出川で確認された魚類の特定種一覧表

種名	指定区分	確認場所
スナヤツメ	環(VU)、三重レ(VU)	雲出川下流域、中村川
ヤリタナゴ	三重レ(VU)	雲出川下流域、中村川、波瀬川
アブラボテ	三重レ(VU)	雲出川下流域
カネヒラ	三重レ(EN)	雲出川下流域、中村川
カワヒガイ	三重レ(EN)	雲出川下流域、中村川
ズナガニゴイ	三重レ(EN)	雲出川下流域
ネコギギ	国指、環(EN) 三重レ(CR)	雲出川中～上流域、中村川（文献による確認）
アカザ	環(VU)、三重レ(VU)	雲出川下流域
メダカ	環(VU)、三重レ(NT)	中村川
カマキリ	三重レ(VU)	雲出川下流域
トビハゼ	三重レ(CR)	雲出川河口域、雲出古川
キセルハゼ	環(CR)、三重レ(EX)	雲出川河口域、雲出古川
アシクロハゼ	三重レ(EN)	雲出川河口域、雲出古川

国指……国、県、市町村指定天然記念物

保存……「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」における国内希少野生動植物種  
および緊急指定種

環……環境省「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブック」記載種  
CR…絶滅危惧IA類 EN…絶滅危惧IB類 CR+EN…絶滅危惧I類 VU…絶滅危惧種II類  
NT…準絶滅危惧種 DD…情報不足 LP…絶滅のおそれのある地域個体群

三重レ…「三重県レッドリスト2005」記載種  
CR…絶滅危惧IA類 EN…絶滅危惧IB類 CR+EN…絶滅危惧I類 VU…絶滅危惧種II類  
NT…準絶滅危惧種 DD…情報不足

出典：平成 3年度 河川水辺の国勢調査 雲出川水系魚類調査報告書  
平成 7・8年度 河川水辺の国勢調査 雲出川水系魚類調査報告書  
平成 12年度 河川水辺の国勢調査 雲出川水系魚類調査報告書

### ■雲出川で確認された爬虫類の特定種一覧表

種名	指定区分	確認場所
スッポン	DD	雲出川下流部

国指……国、県、市町村指定天然記念物

保存……「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」における国内希少野生動植物種  
および緊急指定種

環……環境省「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブック」記載種  
CR…絶滅危惧IA類 EN…絶滅危惧IB類 CR+EN…絶滅危惧I類 VU…絶滅危惧種II類  
NT…準絶滅危惧種 DD…情報不足 LP…絶滅のおそれのある地域個体群

三重レ…「三重県レッドリスト2005」記載種  
CR…絶滅危惧IA類 EN…絶滅危惧IB類 CR+EN…絶滅危惧I類 VU…絶滅危惧種II類  
NT…準絶滅危惧種 DD…情報不足

出典：平成 3年度 河川水辺の国勢調査 雲出川水系両生類・爬虫類・哺乳類調査報告書  
平成 8年度 河川水辺の国勢調査 雲出川水系両生類・爬虫類・哺乳類調査報告書  
平成 13年度 河川水辺の国勢調査 雲出川水系両生類・爬虫類・哺乳類調査報告書

■雲出川で確認された鳥類の特定種一覧表

種名	指定区分	確認場所
カンムリカツブリ	近畿レ	雲出川下流域、雲出古川
ヨシゴイ	三重レ(DD繁)、近畿レ	雲出川河口域
ササゴイ	三重レ(VU繁)、近畿レ	雲出川河口域～下流域、中村川
チュウサギ	環(NT)、三重レ(VU繁)、近畿レ	雲出川河口域～下流域、中村川
コクガン	環(VU)、三重レ(VU越)	雲出川河口域、
ツクシガモ	環(EN)	雲出川河口域
マガモ	近畿レ	雲出川河口域～下流域、雲出古川、中村川
ホオジロガモ	近畿レ	雲出川河口域
ウミアイサ	近畿レ	雲出川河口域、雲出古川
ミサゴ	環(NT)、三重レ(EN繁・VU越)、近畿レ	雲出川河口域～下流域
オオタカ	保存、環(VU)、三重レ(VU留)、近畿レ	雲出川河口域～下流域、中村川
ハイタカ	環(NT)、三重レ(NT越)、近畿レ	雲出川下流域
ノスリ	近畿レ	雲出川下流域、中村川
サシバ	三重レ(EN繁)、近畿レ	雲出川河口域
チュウヒ	環(VU)、三重レ(CR繁・VU越)、近畿レ	雲出川下流域
ハヤブサ	保存、環(VU)、三重レ(CR繁・EN越)、近畿レ	雲出川河口域
チョウゲンボウ	三重レ(NT越)、近畿レ	雲出川河口域～下流域
コチドリ	三重レ(EN繁)、近畿レ	雲出川河口域～下流域、雲出古川
イカルチドリ	三重レ(VU繁・NT越)、近畿レ	雲出川河口域～下流域、中村川
シロチドリ	三重レ(EN繁・NT越)、近畿レ	雲出川河口域、雲出古川
ムナグロ	近畿レ	雲出川河口域～下流域
ダイゼン	近畿レ	雲出川河口域
タゲリ	三重レ(VU)、近畿レ	雲出川下流域
キョウジョシギ	近畿レ	雲出川河口域
トウネン	近畿レ	雲出川河口域
ヒバリシギ	近畿レ	雲出川河口域
オジロトウネン	三重レ(DD越)、近畿レ	中村川
ハマシギ	近畿レ	雲出川河口域
オバシギ	近畿レ	雲出川河口域
アオアシシギ	近畿レ	雲出川河口域
クサシギ	近畿レ	雲出川下流域、中村川
キアシシギ	近畿レ	雲出川河口域、雲出古川、中村川
イソシギ	近畿レ	雲出川河口域～下流域、雲出古川、中村川
ソリハシシギ	近畿レ	雲出川河口域～下流域
オグロシギ	近畿レ	雲出川河口域～下流域
オオソリハシシギ	近畿レ	雲出川河口域
ホウロクシギ	環(VU)、三重レ(NT通)、近畿レ	雲出川河口域
チュウシャクシギ	近畿レ	雲出川河口域、雲出古川
オオセグロカモメ	近畿レ	雲出川河口域
ウミネコ	近畿レ	雲出川河口域、雲出古川
コアジサシ	環(VU)、三重レ(EN繁)、近畿レ	雲出川河口域～下流域、雲出古川
カッコウ	近畿レ	雲出川下流域
ホトトギス	近畿レ	雲出川下流域
アマツバメ	近畿レ	雲出川下流域、中村川
ヤマセミ	近畿レ	雲出川下流域
カワセミ	近畿レ	雲出川河口域～下流域、中村川、波瀬川
アリスイ	近畿レ	雲出川下流域
アカゲラ	近畿レ	雲出川下流域
ハクセキレイ	近畿レ	雲出川河口域～下流域、雲出古川、中村川
ビンズイ	近畿レ	雲出川下流域
ノビタキ	近畿レ	雲出川河口域～下流域、中村川
イゾヒヨドリ	近畿レ	雲出川河口域～下流域、雲出古川
オオヨシキリ	三重レ(NT繁)、近畿レ	雲出川下流域、雲出古川、中村川
セッカ	近畿レ	雲出川下流域、雲出古川、中村川

種名	指定区分	確認場所
ホオアカ	近畿レ	雲出川下流域
ミヤマホオジロ	近畿レ	雲出川下流域
アオジ	近畿レ	雲出川下流域、中村川
ベニマシコ	近畿レ	雲出川下流域、中村川
シメ	近畿レ	雲出川下流域、中村川

国指……国、県、市町村指定天然記念物

保存……「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」における国内希少野生動植物種  
および緊急指定種

環……環境省「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブック」記載種

CR…絶滅危惧IA類 EN…絶滅危惧IB類 CR+EN…絶滅危惧I類 VU…絶滅危惧種II類

NT…準絶滅危惧種 DD…情報不足 LP…絶滅のおそれのある地域個体群

三重レ…「三重県レッドリスト2005」記載種

CR…絶滅危惧IA類 EN…絶滅危惧IB類 CR+EN…絶滅危惧I類 VU…絶滅危惧種II類

NT…準絶滅危惧種 DD…情報不足

近畿レ…「近畿地区鳥類レッドデータブック」記載種

出典：平成 4年度 河川水辺の国勢調査 雲出川水系鳥類調査報告書

平成 9年度 河川水辺の国勢調査 雲出川水系鳥類調査報告書

平成 13・14年 河川水辺の国勢調査 雲出川水系鳥類調査報告書

## (5) 雲出川を特徴づける場所

地域の有識者からなる「雲出川環境特性懇談会」(平成9~10年開催)において、雲出川を特徴づける場所として以下の34箇所が抽出されている。

表2-1 雲出川を特徴づける環境

	らしさのキーワード	位置	内 容
1	河口に広がる干潟	雲出川本川河口 (0~1.0km付近)	規模の大きな干潟があり、四季を通じ、渡り鳥の休息・採餌の場を提供している。
2	香良洲道の面影漂う風景	香良洲大橋付近 (2.2km付近)	香良洲大橋のたもとにある常夜灯と道標は、往時の伊勢街道の趣を今に伝えている。(現在は移設)
3	サギのコロニー	雲出川と雲出古川の分派点付近 (2.7km付近)	雲出川と雲出古川の分派点の左岸部の河畔林は、サギ類の集団営巣地(コロニー)となっている。
4	三雲の笛流し	雲出橋付近 (4.0km付近)	三雲の笛流しは、雲出橋から笛を流し、流れる笛をライトアップする行事で、夏の風物詩となっている。(現在は笛飾りが行われている)
5	カヌー公園	JR橋梁付近 (4.8km付近)	香良洲頭首工から笠松頭首工までの区間は、カヌー遊びの絶好の環境であり、JR橋梁付近にカヌー公園(雲出川河川敷公園)が整備されている。
6	たいしょう 大正橋下流に広がる親水空間	笠松頭首工~大正橋下流 (6.2~6.7km付近)	大正橋下流にある雲出川緑地は、現在、スポーツの場として利用されており、イベント等の利用価値が高い場所である。
7	豊かな植生の残る中村川合流点付近	中村川合流点付近 (7.2km付近)	霞堤周辺には、豊かな植生が残されており、雲出川と中村川の合流点の広い水面には、2~4月にかけてカモ類が多く見られる。
8	広い河川敷のある須賀瀬橋付近	須賀瀬橋付近 (9.3km付近)	須賀瀬橋下流の広い河川敷は、大人数で生物調査ができる場として利用されている。また、水防演習の場にも利用され、雲出川と人とのふれ合いの場となっている。
9	白波の立つ瀬と白い砂州	波瀬川合流点付近 (9.8km付近)	アユの産卵の時期には、波瀬川合流点から小野江頭首工まで真っ白になる程、産卵場としての条件を備えた絶好の場所である。
10	投網漁が見られる小戸木橋付近	小戸木橋~小野江頭首工 (10.7~11.0km付近)	小戸木橋でのアユ漁は網が多く用いられてる。網の解禁日以後には小戸木橋で投網をする人が見られる。
11	一志米を支えてきた雲出井	雲出井頭首工付近 (12.4km付近)	雲出川流域が米所(一志米)として栄えた原点となった、雲出井頭首工は、流域住民の格別な思いが込められている。
12	水量感のある風景	中川原橋付近 (13.2km付近)	広い水面幅を有し、穏やかに蛇行して流れる様は、昔の面影がなくなりつつある雲出川の中では貴重な箇所である。
13	流れの変化に富んだ其倉橋付近	其倉橋付近 (14.7km付近)	白波立つ流れや静かな流れ等変化に富み、蛇行して流れいく様が、其倉橋付近の景観を特徴付けている。
14	いはげ 石橋付近の“光の帶”	石橋~高野頭首工 (15.5~15.8km付近)	ゲンジボタルが水際のヨシ原を飛び、雲出川の上に光の帯が浮かび上がる様は、夏の風物詩となっている。
15	おおい 大井小前に広がる環境学習の場	大井小学校~大仰橋 (17.3~17.5km付近)	桜並木や広い河川敷があり、水辺に近づきやすく、水質調査や生物調査等の環境学習の場として利用されている。
16	安らぎの場・亀ヶ広	亀ヶ広付近 (20.6km付近)	車で降りることのできる広い河川敷があり、花見や夏の水遊を楽しむ家族連れで賑わう。
17	カワウの集う早瀬	べんてん 弁天川合流点付近 (22.0km付近)	早瀬に集まる魚を採餌するカワウが見られる。この付近は、岩が点在しており、鳥類が休息出来る条件も有している。
18	かわぐち 古代の面影残す川口付近	やつやま 八ツ山大橋付近 (25.5km付近)	聖武天皇の頓宮があり、現在は川口頓宮跡の碑が建てられており、交通の要所として栄えていた歴史を伺わせている。
19	雲出川の景勝地・瀬戸ヶ淵	瀬戸ヶ淵付近 (27.5km付近)	白い岩肌と青緑の透明感のある流れが見られる景勝地であり、雲出川の代表的な景観として挙げられる。
20	雲出川ほとりの湧き水	瀬戸ヶ淵付近 (28.5km付近)	「こぶ湯」と呼ばれる湧水があり、飲むとこぶがとれたり、胃腸病に効果があると言われ、多くの人々が水汲みに訪れる。
21	四季折々の自然にふれられるわかすぎの里	わかすぎの里付近 (藤川4.0km付近)	ニジマスのつかみ取りをはじめ、オートキャンプ場や桜、ツツジ、水遊び、紅葉、シン錦等、四季を通じ、自然とふれ合う場として利用されている。
22	りょうごく 両国橋のいかだ下り	両国橋付近 (29.0km付近)	両国橋右岸側にある家城小学校では、一雲橋から両国橋間で毎年、いかだ下りの行事を行っている。
23	釣りや水遊びの場・家城ライン	家城ライン (30.0~31.2km付近)	畠穴のある奇岩・奇石が多く見られる。春は真見の堰堤付近の花見、夏は水遊びや釣りを楽しむ人々で賑わう。
24	桜の新名所・君ヶ野湖	君ヶ野ダム (八手俣川1.0km付近)	春には桜の新名所として賑わうほか、四季折々のスポーツ、キャンプ、イベントの場として親しまれている。

	らしさのキーワード	位 置	内 容
25	のんびりとしたアユ釣り場	八知～坂本川合流点(41.0～53.5km付近)	川原の開けた釣り場が続いており、多くの人が訪れる。
26	アマゴの里	坂本川(坂本川全域)	坂本川はアユとともにアマゴの釣りの場や養殖が盛んで、アマゴのつかみ取りができる施設もある。
27	雲出川の源流	平倉の三重大学演習林(平倉川上流部付近)	天然生林がほぼ60%を占め、動植物の宝庫となっており、バードウォッチング、動植物の観察などの愛好家に親しまれている。
28	野鳥観察の場	雲出古川河口(雲出古川0～1.0km付近)	鳥類の採餌の場、休息の場としての干潟が残されている。渡り鳥の渡来する4～5月と9～10月には、野鳥の観察会が行われている。
29	宮古忘れの地	おがわ 小川橋付近(中村川1.5km付近)	斎宮が伊勢神宮に入る際の通り道で「この三重の雲出川まで來たら都を忘れなさい」という意味から名付けられている。
30	戸井佐近の墓	なかよし 中郷小学校前付近(中村川8.8km付近)	室町時代の干ばつの際、井堰を取り壊そうした農民から命をかけて井堰を守った侍、戸井左近を祀ってあり、井堰と深い関わりを持つ雲出川を今に伝える場である。
31	津市の飲料水	旧美里村役場前付近(長野川8.0km付近)	この場所で取水されている津市の上水は、昭和60年に「おいしい水研究会」によりおいしい飲料水として挙げられている。
32	里山の自然にふれられる水遊びの場	なごみ 荘の口付近(波瀬川20.0km付近)	流れに透明感があり、岩石が点在するため、格好の水遊びの場となっており、昔より、身近な川として地域と関わっている。
33	波瀬川上流のキャンプ場	矢頭中宮公園付近(波瀬川27.5km付近)	矢頭中宮公園にはキャンプ場があり、溪流の自然にふれるために、四季を通じてたくさんの人が訪れる場所である。
34	地域を支えた雲出川の舟運	—	街道筋に、小野江の渡し、雲出の渡し、大仰の渡し等があり、渡し運賃をはじめいろいろな恵みをもたらした場である。



1 河口に広がる干潟



2 香良洲道の面影漂う風景



3 サギのコロニー



4 三雲の笛流し



5 カヌー公園



6 大正橋下流に広がる親水空間



7 豊かな植生の残る中村川合流点付近



8 広い河川敷のある須賀瀬橋付近



9 白波の立つ瀬と白い砂州



10 投網漁が見られる小戸木橋付近



11 一志米を支えてきた雲出井



12 水量感のある風景



13 流れの変化に富んだ其倉橋付近



14 石橋付近の“光の帶”



15 大井小前に広がる環境学習の場



16 安らぎの場・亀ヶ広



17 カワウの集う早瀬



18 古代の面影残す川口付近



19 雲出川の景勝地・瀬戸ヶ淵



20 雲出川ほとりの湧き水



21 四季折々の自然にふれられる  
わかすぎの里



22 両国橋のいかだ下り



23 釣りや水遊びの場・家城ライン



24 桜の新名所・君ヶ野湖  
【出典：雲出川八景（社）久居  
青年会議所】



25 のんびりとしたアユ釣り場



26 アマゴの里



27 雲出川の源流



28 野鳥観察の場



29 宮古忘れの地



30 戸井佐近の墓



31 津市の飲料水



32 里山の自然にふれられる水遊びの場



33 波瀬川上流のキャンプ場



34 地域を支えた雲出川の舟運

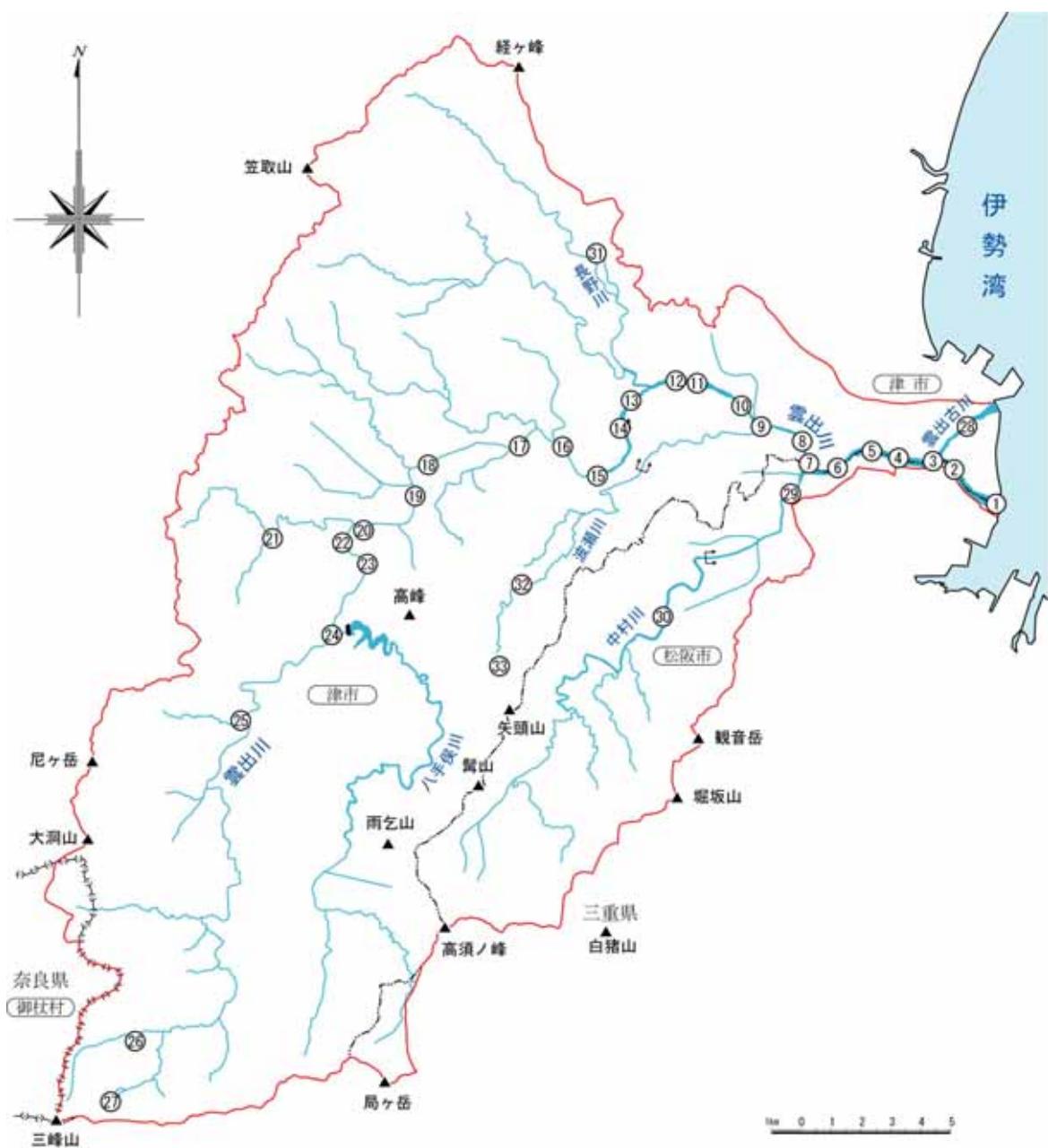


図 2-2 雲出川を特徴づける場所

## 2－2 特徴的な河川景観や文化財等

雲出川流域は、室生赤目青山国定公園をはじめ、赤目一志峠県立自然公園・伊勢の海県立自然公園があり、優れた自然環境が点在している。

上・中流域では奥一志峠、瀬戸ヶ淵、家城ライン等の奇岩怪岩に富む渓谷美が特徴である。また、君ヶ野ダム・二雲橋・亀ヶ広・石橋・榎原温泉・中村川堤防・カヌー公園・香良洲橋は久居青年会議所が住民に募集して決定した雲出川八景に取り上げられている。

下流域は、沖積平野の中を大きく蛇行しながら流下しており、広大な田園風景が特徴付けられる。

河口部においては、干潟が発達しており、春から初夏の潮干狩り、夏の海水浴、冬のシラス取りが雲出川の風物詩になっている。

雲出川流域は、縄文時代から人が定住し、南北町時代には北畠氏が支配し、江戸時代に入ると久居に藤堂藩の城下町が開けたことから、古来からの歴史と文化を感じさせる遺跡が多く残されている。また古代から、大和と伊勢を結ぶ街道が流域内を通り、交通の要衝でもあった。

このようなことから、雲出川流域には多くの文化財が存在し、このうち国及び県指定の史跡、名勝、天然記念物は13件（うち、国指定6件、県指定7件）が存在する（平成16年度現在）。

表2-2 雲出川流域の史跡、名勝、天然記念物指定一覧

No.	名称	指定区分	指定年月日	所在地
1	向山古墳	国史跡	1975(S50)6.26	松阪市嬉野下之庄町
2	天白遺跡	国史跡	2000(H12)4.11	松阪市嬉野釜生田町
3	伊勢山上	県名勝	1952(S27)8.8	松阪市飯福田町
4	矢頭の大スギ	県天然記念物	1953(S28)5.7	津市一志町波瀬
5	真盛上人誕生地	県史跡	1938(S13)2.17	津市一志町大仰
6	東平寺のシイノキ樹叢	県天然記念物	1978(S53)2.7	津市美杉町八知
7	真福院のケヤキ	県天然記念物	1940(S15)8.8	津市美杉町三多氣
8	三多氣のサクラ	国名勝	1942(S17)7.21	津市美杉町三多氣・杉
9	霧山城跡	国史跡	1936(S11)9.3	津市美杉町上多氣
10	北畠氏館跡庭園	国名勝及び史跡	1936(S11)9.3	津市美杉町上多氣
11	榎原の貝石山	県天然記念物	1937(S12)12.27	津市榎原町
12	柳谷の貝石山	県天然記念物	1941(S16)2.13	津市美里町三郷字松尾
13	長野氏城跡	国史跡	1982(S57)1.16	津市美里町桂畠字荒井

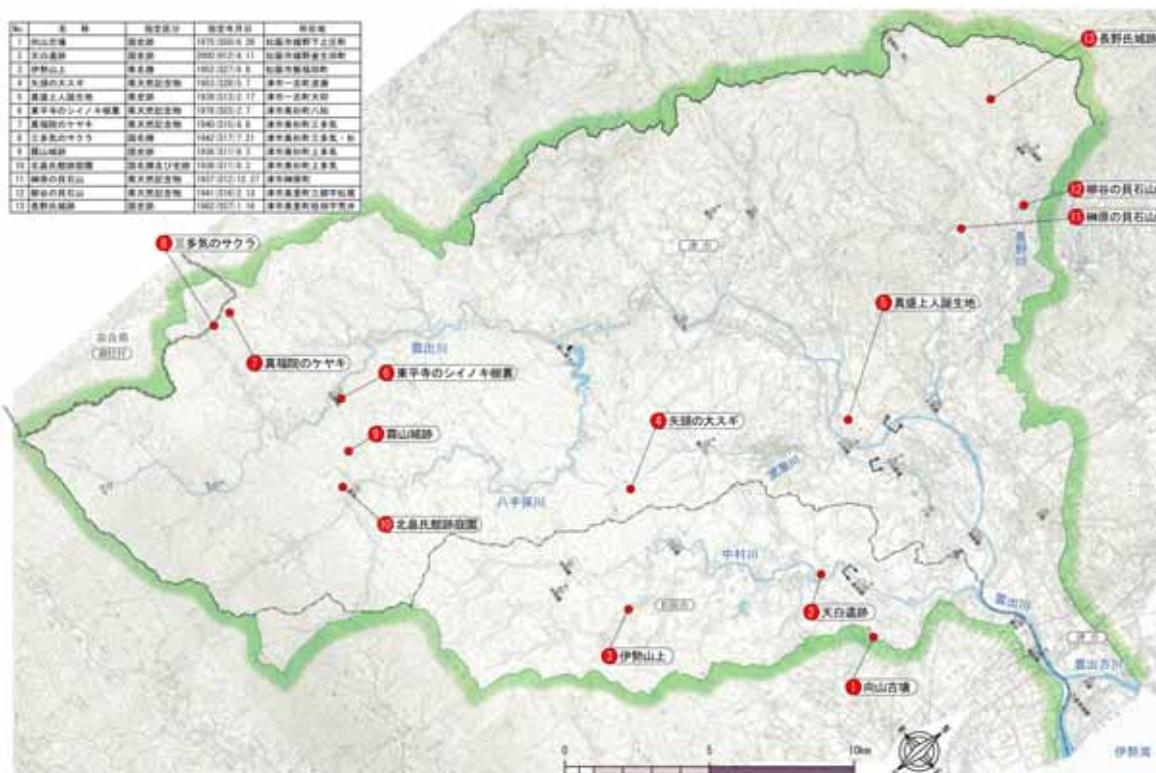


図 2-3 雲出川流域の史跡・名勝・天然記念物位置図



石 橋（津市一志町）

【出典：雲出川八景（社）久居青年会議所】

位置：津市一志町石橋地先  
増水時は水に浸かる潜水橋。  
石橋付近左岸側では、6月になると水際のヨシ原を飛ぶゲンジボタルを見ることができる。



亀ヶ広（津市白山町・津市一志町）

位置：津市白山町・津市一志町  
車で降りることのできる広い河川敷があり、花見や夏には水遊びを楽しむ家族連れで賑わう。



香良洲橋（津市香良洲町）

位置：津市香良洲町桜町地先  
現在、旧香良洲大橋のたもとにあった、常夜灯と道標及び、世の見の木（榎）は移設された香良洲大橋付近に移されている。  
榎の移植：平成 12 年 1 月  
常夜灯等移設：平成 12 年 3 月

## [特徴的な河川景観]

### (1) 雲出川八景

平成 8 年に「雲出川を守り、愛する運動」の一つとして、久居青年会議所が子供達に伝え、残したい雲出川風景を住民に募集、8ヶ所を「雲出川八景」として選定した。

#### ○ 君ヶ野ダム

八手俣川の豊かな水量を生かして建造された重力式多目的ダムであり、周辺は桜、新緑、紅葉など季節折々のすばらしい景観が見られる。



君ヶ野ダム（津市美杉町）

【出典：雲出川八景（社）  
久居青年会議所】

位置：津市美杉町八手俣  
昭和 47 年に完成した県営君ヶ野ダム。  
総貯水量 : 23,300 千 m<sup>3</sup>  
有効貯水量 : 19,700 千 m<sup>3</sup>

#### ○ 二雲橋

JR名松線から見られる雲出川の景色の中でも特に美しく、新緑に囲まれた岩肌が壮大な河川景観をなしている。



二雲橋（津市白山町）

位置：津市白山町北家城  
重圧な石造りで、家城ラインに架かる二雲橋。すぐ上流にJR名松線が走っている。

#### ○ 亀ヶ広

布引山と呼ばれる青山高原を背景に、雲出川沿いに桜のトンネルが続き、桜の季節には花見客で賑わう。

#### ○ 石橋

河原の葦を縫うように細やかなカーブを描いており、石橋の隣を平行に走る、列車、石橋、水鳥、葦原が雲出川を象徴しているといえる。

#### ○ 椿原温泉

「七栗の湯」<sup>ななくり</sup>として知られた古湯に、現代でも多くの旅人が訪れ、自然が多く残された風景を含め、景勝地となっている。

#### ○ 中村川堤防（中村川桜づつみ）

遠くに笠取の山並みを望み、川に沿った桜並木は桜の季節には壯觀な景色を呈している。

#### ○ カヌー公園

河川敷の河畔林、護岸の階段、芝生等が人と川との関わりを象徴した風景となっている。

#### ○ 香良洲橋

香良洲神社の参拝に訪れる人々の安全を願って作られた常夜灯があり、大木と石橋を併せて深い趣が感じられる。

## (2) 一志峡

津市美杉町を流れる雲出川の全域が渓谷といえ、上流の若宮八幡宮までの区間を総称する。春の新緑、秋の紅葉に渓谷が映える景勝地となっており、キャンプやハイキングの格好の場となっている。



一志峡（津市美杉町）  
【出典：美杉村村勢要覧 H14】

位置：津市美杉町  
赤目一志峡県立公園に指定されており、雲出川の浸食によってつくられる渓谷美が、訪れる人を楽しませる。アユ、アマゴの渓流釣りでも有名である。

## (3) 家城ライン

津市白山町家城地域の3km程の渓谷をいう。淵が連なり、川面がエメラルド色に染まり変化に富んだ奇岩怪岩が鮮やかな渓谷美を織りなしている。



家城ライン（津市白山町）  
位置：津市白山町  
名松線家城駅南西1km  
雲出川中流の津市白山町家城地区を流れる延長約3kmを家城ラインと呼んでいる。おおかみ狼ヶ瀬、瀬戸ヶ淵などの名所のほか、渓流釣りが楽しめ、キャンプに適した空き地も広がる。

## (4) 布引の滝

布引の滝は、たきたに滝谷川の上流部に位置し、山の木々の間を縫うように流れている。新緑、紅葉と四季の彩りが鮮やかで、周辺はハイキングコースとして整備されている。



布引の滝（津市白山町）  
【出典：白山町パンフレット】

位置：津市白山町 滝谷川上流  
白山町青山高原の一角にある、段滝で、霧生滝、飛竜滝、大日滝から構成される60mの滝。  
周辺は、鮮やかな四季の彩りが楽しめるハイキングコースになっている。

## 2-3 河川にまつわる歴史・文化

雲出川は、山地から平地に出て乱流し、扇状地の形成をすると同時に、河口部付近に三角州を形成してきた。このようにして形成された平野部は、洪水のたびに流路と化し、土砂を堆積させてるので当初は高度な土地利用は困難であった。

しかし、肥沃な平地は優良な農地となる可能性を秘めていることから、次第に開田が進み、同時に農地を守るために流路を固定するための築堤が行われた。

大正9年の地形図を見ると、現状より無堤部、開口部が多いが、大きな洪水でない限り安定した流路を維持できるような築堤が概略完成された。このような開口部は、かつて12ヶ所存在したが、沿川の土地利用計画や開発に伴い順次締め切られ、現在は6ヶ所の開口部が残されている。



図2-4 堤防築造年代区分図

(土木研究所資料「霞堤の現況調査報告書」より作成)

古文書等より雲出川の歴史をみると、その流れは現在とはかなり異にしている様である。

「勢陽五鈴遺響」によると、『須賀は砂石のことで、須が瀬は河流の瀬に居住する謂なり、民家157戸』とある。

それだけに須が瀬地区の水害の歴史は古いものがあろうと思われるがその記録はない。

ただ地名に「古里」というところがあり、おそらくここにあった集落が今の高橋などへ移転したものと思われる。雲出川はもと須が瀬地区の中南部を流れていたようで「古川」「馬渡り」という戦国の地名が残っており、洪水となるとこの低地が渦流と化し落合へ流れ注ぎ、さながら自然の大河を思わせるものがある。この流れが古雲出川であったと思われる。

雲出川の名は、煙が雲のように立ち込め、遠くから見ると雲が出づる集落に思えた。そして、その集落を河口に持つ雲出地区から名付けられたらしい。また、源流の山並みに雲がわき出ている川だからという説もある。

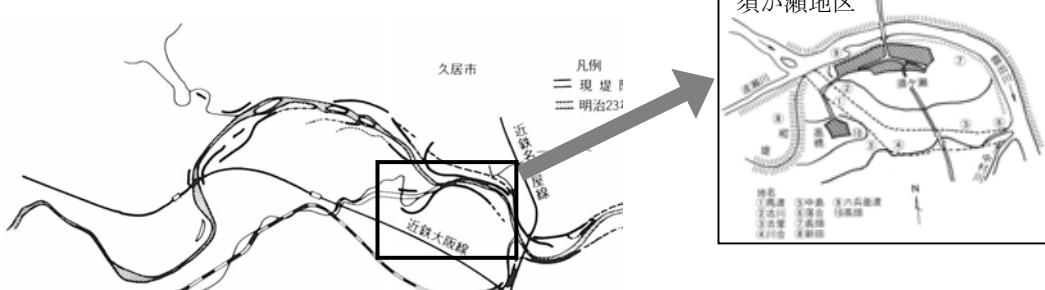


図2-5 雲出川の変遷図

## (1) 雲出川にまつわる歴史・文化

### ①雲出川の渡し

#### ○小野江の渡し

津市香良洲町の入り口で新川と雲出古川に分流する手前の津市島貫しまぬきと松阪市三雲地区の須川を結んでいた。

現在は、雲出橋が架かっており、渡し船が往来していた頃に、旅人の安全を願って建てられた小野江常夜燈が残っている。



小野江常夜燈（松阪市）

津市島貫と松阪市三雲地区の須川を結んでいた小野江の渡し。

現在では雲出橋が架り、橋のたもとのポケットパークに常夜灯、道を挟んでおののえらき小野古江渡し跡の碑がある。

#### ○雲出の渡し

津市木造こつきと松阪市嬉野川原木造かわらこつきとの間に雲出川の渡しがあった。

江戸時代には京都、大阪からの参宮街道の裏街道として重要な渡しであった。江戸時代、この辺りは紀州藩と津藩の米、麦、木材、日常雑貨を載せた舟が雲出川を上下する集散地として栄えた。現在は、大正橋が架かっている。

#### ○大仰の渡し

初瀬街道を通る旅人は、この大仰の渡しを使って伊勢へ向かった。また、伊勢神宮参りが盛んなところは大角や一志大仰の渡し場から旅人を乗せていた。

大正時代の終わり頃、大仰地区の小学校が舟で香良洲海岸まで遠足したといわれている。

現在、渡しがあった付近には大仰橋が架けられている。



大仰の渡し（津市一志町）

雲出川を渡る難所の一つで、延宝5年(1675)年に最初の橋が架けられた、出水のたびに流失するため、松板を並べた橋に架け替え、通行料を取っていた。橋が完成後も出水により、流失した際は、舟渡しに切り替えていた。

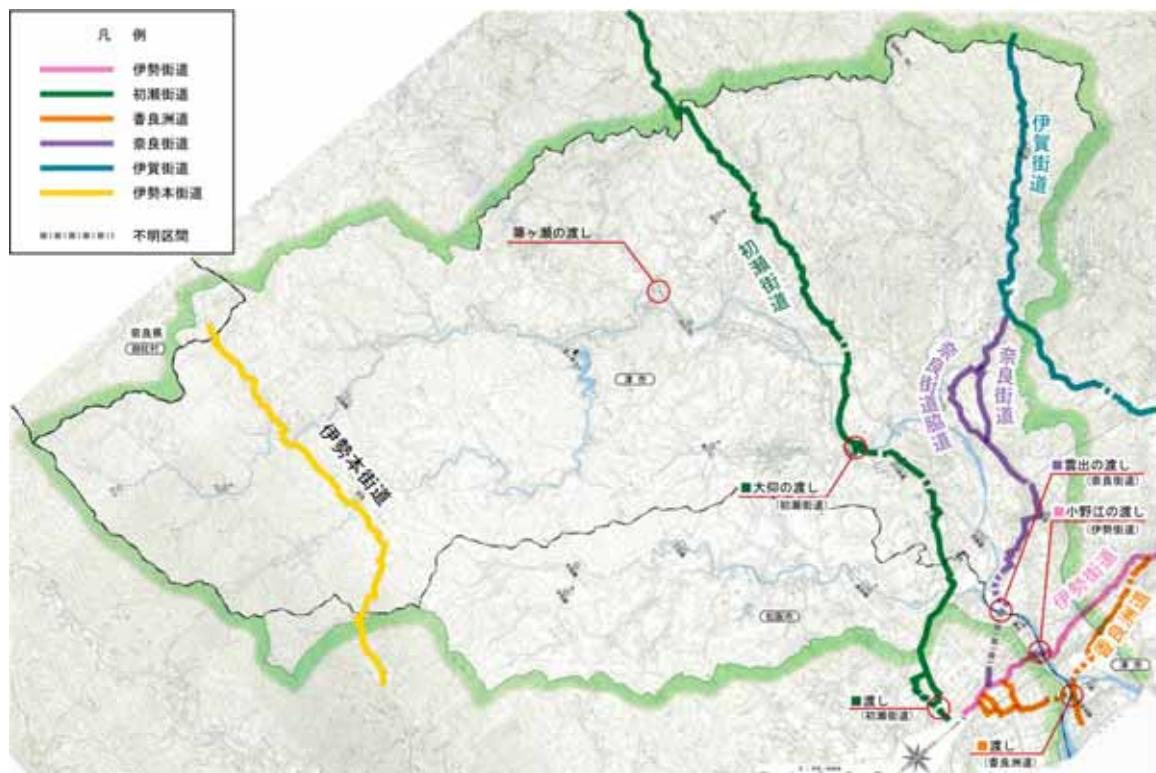


図 2-6 街道・渡し位置図

雲出川流域には、伊勢街道、伊賀街道、初瀬街道、伊勢本街道の4つの旧街道と伊勢街道と伊賀街道を結ぶ奈良街道、伊勢街道から分岐する香良洲道が通っており、伊勢参拝客らの旅人でおおいに賑わった。

京・大和方面と伊勢を結ぶ全長約14里(55km)の初瀬街道は松阪市六軒から、雲出川と平行して、大仰で雲出川を渡り、青山峠を越え、名張を経て初瀬へと到る。

また、初瀬街道は、青山峠から垣内地内、二本木地内、大仰橋を渡り、中川地内を通り、雲出川流域を横断する街道であり、神社等が多く当時の面影を残している。

## ②雲出井頭首工

雲出川の治水、利水に尽くした郡奉行の西島八兵衛は、干害に苦しむ雲出村の農民を救い、雲出川流域が米所（一志米）として栄えるよう、1648年に雲出井の用水路を開いた。このため、雲出井頭首工には流域の格別の思いが込められている。現在、雲出井頭首工の周辺には、雲出井頭首工竣工記念碑や雲出井頭首工を詠った詩が刻まれている碑が残っている。



雲出井頭首工（津市・津市一志町）

昭和32年から3ヶ年余かけて堰を改修し、その後、護床が沈下のため、昭和57年に蛇籠式からコンクリート式となった。

### ③瀬戸ヶ淵

瀬戸ヶ淵は、雲出川で一番川幅が狭いところで、雨期にはすぐあふれて水害を繰り返していた。これを防ぎ、筏の流れを良くするため、藤堂藩士山中為綱は、3年がかりでツチとノミで岩を削り、河床を広げ、1664年に完成させた。



瀬戸ヶ淵（津市白山町）

白い岩肌と青緑の透明感のある流れがみられる景勝地であり、雲出川の代表的な景観である。

### ④川口・杉ヶ瀬

雲出川は白山から津藩への年貢納めや伊勢神宮参りの交通路となっており、舟による物資の輸送路として利用されていた。この水運の起点が津市白山町川口・杉ヶ瀬にあつたとされ、炭の割木、茶などを河口まで運び、海藻類、塩などを持ち帰ったといわれており、当時の津市白山町は物資の集散所が設けられ栄えていた。

### ⑤鞆鼓踊り

「鞆鼓踊り（かつこおどり）」がなまつたもので、鞆鼓を持った踊りである。室町時代から伝承され、郷土芸能として発達し、旧盆（8月15日から18日）に各地域で行われており、無形文化財に指定されている。かんこ踊りは、神社の祭礼と関係が深い。祭りに奉納するという形、あるいは雨乞い、祖先の靈に感謝するために行われてきた。それぞれ、違った音頭と踊りを持っており、日本古来の風習が偲ばれる。



鞆鼓踊り（松阪市）

【提供：旧三雲町】

各地域で行われており、地域によって異なる。

笠松踊りと曾原踊りがあり、笠松地区では、毎年8月14～15日に松養寺・海雲寺の境内で行われる。

写真は笠松かんこ踊り。

### ⑥香良洲宮踊り

約350年前から伝わる伝統芸能で、毎年8月15日夜から16日にかけて行われる。

この伝統芸能は、香良洲神社にその年の豊漁豊作を祈願し、町民の親睦、慰安をはかるもので「風采踊り」ともいわれている。踊り子は、頭に鳥毛の“カブト”を着け、浴衣染めの襦袢、股引を着用し、足はわらじを履いて、肩からカンコを吊して、激しいリズムで踊る。三重県指定無形文化財指定されている。



香良洲宮踊り（津市香良洲町）

【出典：香良洲町町勢要覧 H11】

約350年前から伝わる伝統芸能で、夜9時30分頃から、翌朝の午前中まで不眠不休で踊り続ける。

昭和45年2月25日に三重県指定無形文化財に指定されている。

## ⑦千本つき

千本つきは「千本杵」とも言われ、新しく造る堤防や家を建てるための置き土をたくさん的小棒で突き固めることを意味している。津市白山町の元取地区では、慶応2年（1866年）から行われており、氏神の祭り行事として新米を神社に奉納して五穀豊穣を祈願し、併せて家内安全、郷土の繁栄を祈っている。最後の一臼は天下餅といわれ、天に向かって突き上げる。自分の杵にたくさんの餅を付けると幸運を呼ぶと伝えられている。



千本つき（津市白山町）

【出典：白山町パンフレット】

毎年4月中旬に宇氣比神社で行われる  
行事。男衆が棒状のキネで餅を高々と  
突き上げて豊作を祈願する。大勢で餅  
をつくのはめずらしく、縁起を担ぐ行  
事として喜ばれている。

## (2) 雲出川にまつわる伝統

### ①忘れ井

場所：松阪市嬉野宮古町

口碑伝説によると、鳥羽天皇の天仁元年、恂子内親王一六歳にて伊勢神宮斎宮になられることになり、ご群行の時、宮は住みなれた花の都、九重の空を後にして懐かしき父母と別れ、まだうら若き御身一人で遠く伊勢の地に行かれるのを、心細く思った。天皇の代理として皇太神宮の祭主となられる身ながら、旅の道すがらも別れ行くことを嘆かれた。こうして一志の駅家を過ぎるとき、渴きを覚えられたので、路傍の井戸に立ち寄られ水を求めるとした。ふと、その水面をのぞかれたとき、神々しい姿は消えて怪しい姿となって写ったので、宮は初めて今までの心の迷いを悟られて一首歌を読んだ。深く神に祈られて再び姿を映されると、今度は以前にかわらぬ姿となられたので、この井戸を“忘れ井”と名付けた。



忘れ井（松阪市）

忘れ井は松阪市嬉野宮古町と市場庄町の旧参宮街道の米ノ庄神社別れ道にあり、ともに「別れゆく都」を今に伝えている。

### ②かさつき地蔵

場所：津市一志町大仰の大仰橋

真盛上人（幼名を宝殊丸という）が七歳のとき、出家されるについて、父母との別れを哀しみむずかれたので、父が一時の方便で大仰川に流せと怒り、真に受けた侍者が、宝珠丸を笠に乗せて権現淵に投げ込んだところ、不思議にも乗せた笠は逆流して大仰の上の淵の巨岩に漂着した。そこを通りかかった川口村光明寺の和尚が川中を



かさつき地蔵（津市一志町）

岸壁に地蔵菩薩の像が彫られており、土地の人は「かさつき地蔵」と呼んでいる。

また、道を挟んで迎えの大きな岩には、逆さまに彫られた地蔵菩薩があり、「さかさ地蔵」と呼ばれている。

見ると、童子が笠に乗ったまま読経を続けていたので、これは阿陀のかりの姿であると喜び、拾い上げて寺で養育した。そこで漂着した巨岩に地蔵尊を刻した。笠に乗っていたので「かさつき」といったという。

### ③こぶ湯

場所：津市白山町家城神社の裏手

こぶ湯の秘話はこの湯にまつわる悲しい物語である。

盧略部連枳管喻（いほきべむらじきこゆ）というこの靈泉を守る湯人の棟領を務めていた人がいた。

雄略天皇の御代、阿閑臣国見（あべのおみくにみ）という者が、「枳管喻の息子の武彦が、神宮に仕える斎の宮を妊娠させた。」という流言を飛ばした。

枳管喻は、天皇のおとがめを恐れて、ある日、武彦を盧城川に連れていき、不意をおそって太刀で刺し殺してしまった。

やがて噂は天皇の耳に入り、問いただされた斎宮・拷幡（たくはた）皇女は、いたたまれず神鏡を抱いて五十鈴川の上流へと姿を消した。その後、五十鈴川の川上で、虹が蛇のように立ちのぼるのが見え、不思議に思って辺りを掘ると神鏡が出土し、さらに山中では皇女が命を絶っていた。

真偽を確かめようと皇女の腹を割いてみると、腹には水が溜まり、石ころがあるだけだったという。

それを聞いた枳管喻は、息子を殺したことを悔やみ、流言を飛ばした国見を殺して大和の石上神宮へと逃れたという。

この話は8世紀初頭にまとめられたといわれる日本書紀に記されており、武彦が討ちとられた場所を飛落首（ひひくび・場所は瀬戸ヶ淵の東）、太刀を洗った細流を太刀洗の水と伝えている。



こぶ湯（津市白山町）

家城神社の裏にあり、こぶの取れる靈泉「こぶ湯」と呼ばれ親しまれている。

最近は、難病に効くとこぶ湯を求める人がたくさん訪れている。

## 2－4 河川環境に関する地域の活動

雲出川流域に関連した活動としては、「君ヶ野ダム周辺環境保全協議会」の活動が代表として挙げられる。

君ヶ野ダム周辺の環境保全活動については、ダム完成当初から地域住民や各種団体による桜や紅葉などの植樹、草刈り、清掃等のボランティア活動により支えられてきた。また、地元自治会による「桜祭り」や走友会による「桜マラソン」などによりダム周辺環境を活用した交流活動が行われてきた。

近年、ダム周辺は桜の老木化や公園施設の老朽化により周辺環境が衰退しつつあることから、ダム周辺の環境保全活動により、周辺環境がさらにより良いものとなり、いつまでもすばらしい自然環境ときれいな水、こころ和ます桜が後の世代まで引き継がれることを目的として、平成16年9月に協議会が設立され、ワークショップや桜の植樹会などの活動が行われている。

## 2－5 自然公園等の指定状況

雲出川流域は、布引山脈から高見山地にかけての一帯と、津市美杉町のほぼ全域及び松阪市嬉野地区の一部が国定公園・県立自然公園に指定されている。中・上流域内にはこれらの自然環境を活かして開けた観光地が多く見られ、青山高原はゴルフ場、別荘、キャンプ場等のレジャー施設が整っており、さらに、美しい渓谷・溪流が存在し県内外からの観光客で賑わう。下流域では、津市と津市香良洲町の臨海部も県立自然公園に指定されており、潮干狩りや海水浴場として多くの人に親しまれている。

また、流域内では9箇所が鳥獣保護区に指定されている。

表2-3 雲出川流域自然公園等の指定状況

公園名	指定年月日	関係市町村	主な観光資源	公園面積
室生赤目青山 国定公園	S45.12.28	名張市、津市、松阪市、伊賀市	北畠神社、香落渓、 赤目四十八滝、 奥香肌峡、奥山愛宕 神社、霧山城跡、榎原温泉、山岳景観	13,564ha
赤目一志峡 県立自然公園	S23.10.14	名張市、津市、松阪市	雲出川上流渓谷、 一志峡、家城ライン、 君ヶ野ダム、美杉温 泉、山岳景観	22,043ha
伊勢の海 県立 自然公園	S28.10.1	鈴鹿市、津市、河芸町	千代橋、鼓ヶ浦、 阿漕浦、御殿場、香 良洲等海浜景観	782ha

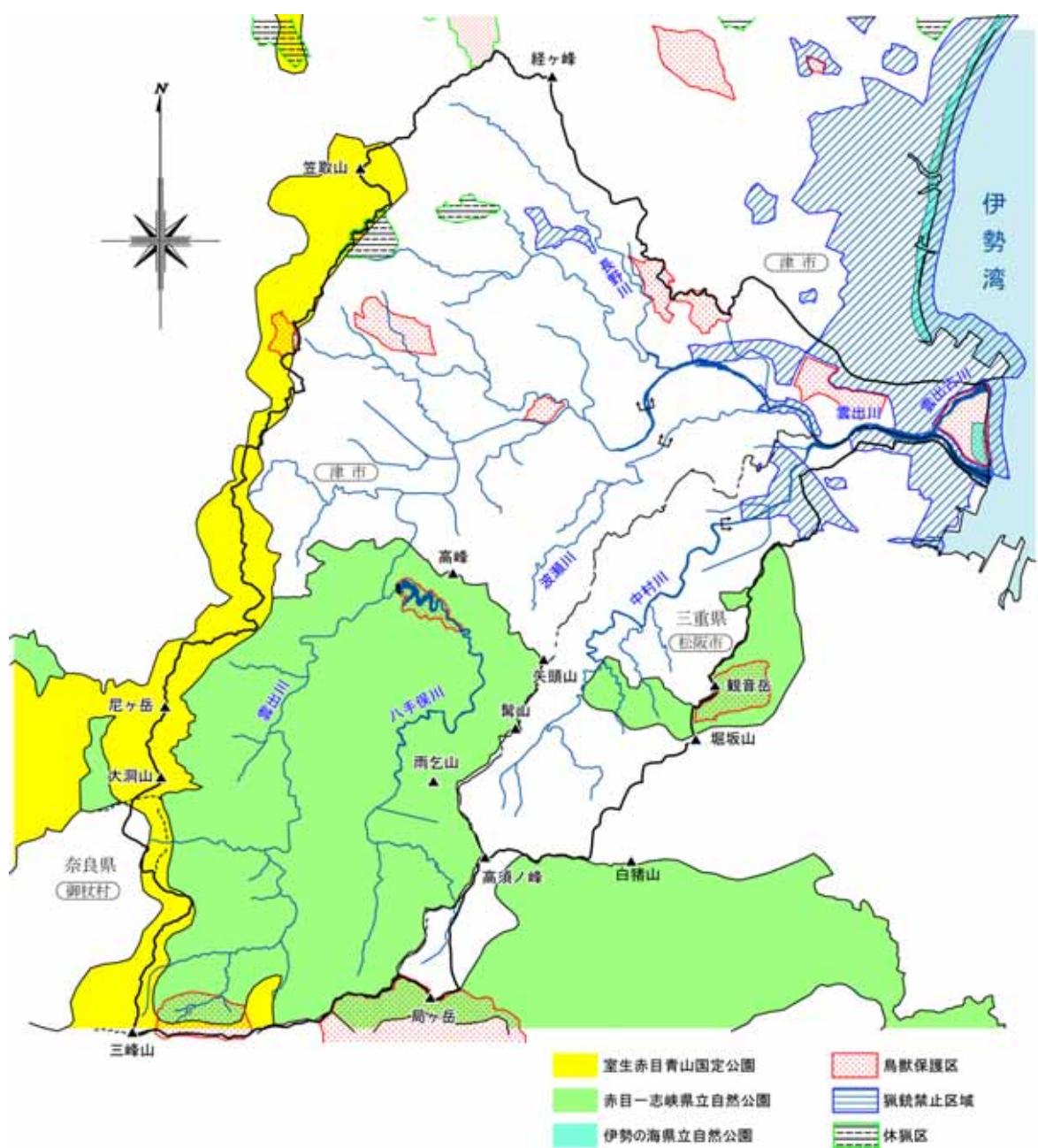


図 2-7 自然公園等の指定状況